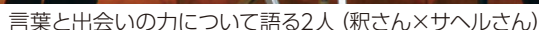


教區新報



兵庫教区教務所
facebook

2024.2 219号



宗門関係者や一般の方も含め約300人が聴講し、YouTubeでも大勢の方が視聴した。

釈さんは「心と言葉」と題し、親鸞聖人の歩みを通じて、言葉のもつ意味と体験が一致することの

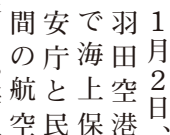
釈徹宗さん×サヘル・ローズさんが講演
 ― 親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要協賛行事講演会 ―

大切さについて話された
サヘルさんは「出会いこそ、生きる力」と題し、自身の生い立ちを通して実感した生きる力について語った。戦争で家族を失い孤児となったこと、身体の一部を犠牲にして受け入れてくれた養母のこと、日本での出会いなど、実体験をもとに、人の生きづらさと、生きる力を、本物の言葉で届けた。

講演では参加者に向けて「日本に来て、たくさんの人に出会いました。その出会いが、私に生きる力を与えてくれました。私は、出会いに感謝し、出会いに応えることが、私の生き方です。親鸞聖人の教えは、私にとっても大切なものです。親鸞聖人は出会いによって救われた人です。私たちも、出会いによって救われる人です」と語りかけた。

対談では、生きづらさの原因や本当の自己肯定感の育み方などについて、2人の体験と仏教のみ教えを照らし合わせながら語られた。

大切さについて話された
サヘルさんは「出会いこそ、生きる力」と題し、自身の生い立ちを通して実感した生きる力について語った。戦争で家族を失い孤児となったこと、身体の一部を犠牲にして受け入れてくれた養母のこと、日本での出会いなど、実体験をもとに、人の生きづらさと、生きる力を、本物の言葉で届けた。



る中、客室乗務員や乗客の方が「大丈夫、落ち着いて」と声をかけ合っている様子
が記録されていた。決して「大丈夫」とは言えない状況下であつても、その言葉
を聞いて落ち着きを取り戻した乗客もいたという。言葉の力を感じた瞬間であつた◆我々の人生も、いつこの世とのご縁が尽きるかわからない、不安に満ちた人生である。阿弥陀如来は、そんな私たちを目当てとして「南無阿弥陀仏」と呼びかけてくださつておられる。「必ず救う、大丈夫」とおっしゃる方がおられるからこそ、安心して人生を歩ませたいだくことができるのである。

阪神南組 西性寺 天崎仁紹

令和6年能登半島地震により被災された皆さまに 衷心よりお見舞い申しあげます

浄土真宗本願寺派 兵庫教区・本願寺神戸別院

浄土真宗本願寺派 たすけあい運動募金「令和6年能登半島地震 災害義援金」受付先

1. 受付口座番号 ● 郵便振替 01000-4-69957
加入者名 たすけあい募金
- 銀行振込 銀行 ゆうちょ銀行 店名 一〇九(イチゼロキュウ)店
番号 当座 0069957 名義 たすけあい募金
※通信欄に「能登地震」とご記入のうえ、住所、連絡先、領収書名をご記入ください
2. 問い合わせ先 浄土真宗本願寺派伝道本部 社会部<災害対策担当>
TEL:075-371-5181 Mail:saigai-taisaku@hongwanji.or.jp

浄土真宗本願寺派 能登半島地震支援センター

支援物資受け入れやボランティア等、最新情報はこちらから確認ください

X(旧 ツイッター) <https://twitter.com/hongwanji247>
インスタグラム <https://www.instagram.com/hongwanji247/?hl=ja>



親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年によせて

「慶讃法要」を機縁に、四夷法願さんに連載いただいています。

親鸞聖人御誕生の意義、立教開宗が示す意味を、一緒に味わわせていただきます。

06

『教行信証』撰述の背景と時代観

親鸞聖人は九十年のご生涯で多くの著作を撰述されましたが、中でも主著『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』)は浄土真宗の根本聖典であることから、『本典』とも呼ばれています。この書が撰述される動機となった年号「元仁元年」(一二二四)には、仏教における三時思想という時代観が深く関わっています。

およそ二千五百年前、お釈迦様が入滅されてから後の五百年間は正法時代といつて、教え(教)が正しく残り、それに基づく正しい行い(行)をして、さと(証)へと至ることができると、「教・行・証」の三法がすべて揃っている時代です。次の千年間は像法時代といい、教えと行ずる人は残りますが、さとりに至るには限らないという時代です。そしてその後の二千年間が末法時代で、教えは残りますが、正しく行ずることができなくなり、さとりに至ることができない時代です(三時の各年限には諸説あります)。こういった仏教の時代観の中で、親鸞聖人がお

られた時代は末法であるというのが当時の常識的な時代認識でした。

ところが、「元仁元年」に比叡山から朝廷に提出された『延暦寺奏状』には、「法然やその弟子達は、今は末法の時代だから念仏以外で救われる道はないといっている。しかし、今は像法の終わりか、末法に入っていたとしてもまだ間もない時代であるから、修行さえすればさとりを開くことができる。にもかかわらず、専修念仏の輩が念仏以外では生死を超えぬ道がないと説くのは、仏教を否定する邪説である」といった看過できない内容が記されていました。

この論難に対して、親鸞聖人は真つ向から反論していきま

す。『教行信証』において「元仁元年」という年は、末法に入つてすでに六百七十三年も経っていることを算定し、さらに比叡山の開祖である伝教大師最澄の「末法灯明記」をほぼ全文を引用することによって、『延暦寺奏状』が出された「元仁元年」が紛れもなく末法であることを論証していかれたのでした。こうして、末法においてこの世でさとりを開いていく聖道門の仏道は、もはや成り立たない時代であることを比叡山に突きつけたのです。

このように、恩師・法然聖人が明らかにされたお念仏の教えへの批判に対して、親鸞聖人はその真実義を開顕するために『教行信証』を著します。阿弥陀如来より与えられる本願念仏の教えは時代や衆生の能力は問題とせず、『大無量寿経』(教)によって、本願の名号を聞き受けて称える(行)ものは必ず浄土に往生し、さとりを完成させていただく(証)ことができる他力の大道です。すなわち、正法・像法・末法の三時を貫いて、あらゆる衆生を救い続ける「浄土真実」の「教・行・証」の三法を「顕」すために書かれた衆生の

大著、これが『顕浄土真実教行証文類』だったので

龍谷大学・相愛大学 非常勤講師
阪神西組 信行寺住職

四夷法願

29年目の1・17

―別院で追悼行事―

震災から29年目を迎えた1月17日、午後1時30分から本願寺神戸別院で「阪神・淡路大震災物故者総追悼法要」が勤まった。法要に続いて、宗門関係学校学生による「いのち」をテーマとした作文朗読と「いのち」を考える研修会が行われ、門信徒ら約80人が、犠牲となった方々を偲び参拝した。

作文朗読は、岩崎実結さん（睦学園 神戸国際中学校）、川上泰明さん（成徳学園 神戸龍谷中学校）、田中信帆さん（睦学園 兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校）の

3名が行い、いのちの尊さ、互いが助け合うことの大切さについて自らの思いをつづった作文を朗読した。

「いのち」を考える研修会では、ABCテレビアナウンサー・神戸新聞地喜楽館支配人の伊藤史隆さん（61）を講師に、「被災者からの学びと希望」と題して講演を行った。

伊藤さんは、尼崎市の自宅で被災しながらも、「報道で救えるいのちがある」と震災報道の第一線に立ち続けたことを中心に、被災時の恐怖・苦しみと、希望・勇気を与えてくれた人々について話し、今後の社会への期待や報道の持つ役割について語った。

震災から約30年が経ち、被災の経験がない世代が増える中で、震災の痛みと記憶を伝え、いのちの大切さを再認識する法要・研修会となった。

報道の力を語る伊藤氏



5月の慶讃法要にむけて

布教大会・モルック大会を開催

教区布教団が「第21回布教大会」を、2月2日に神戸別院1階研修ホールを会場に開催した。今大会はテーマを「ご



みんなで歌いました♪

縁を慶び、お念仏と共に・教区・別院の慶讃法要をお迎えして」と掲げ、7名の布教使が阿弥陀さまのお心をお取次ぎした。

大会の最後には、「兵庫教区・神戸別院の慶讃法要」の気運向上に向けて、慶讃法要の愛唱歌「みんな花になれ」を布教使有志と仲間のバンド演奏により来場者全員で斉唱し、法要に向けてのムードを盛り上げる記念の大会となった。

モルックでつながる ご縁の輪

子ども・若者ご縁づくり主催で、慶讃法要記念事業として、モルック大会を行った。一般大会は1月21日、学生大会は1月28日に開催し、大人から幼児まで16チーム48名が、白熱したゲームを繰り広げた。

1位〜3位へは豪華景品が当たるとあって、



Go-goモルック!

各チームは真剣勝負。ピンが倒れて点数が入るごとに、大きな歓声が上がりがながら、楽しいご縁づくりの輪が広がった。

ジッセンジャーがやってきた!

―報恩講子どもの集い―



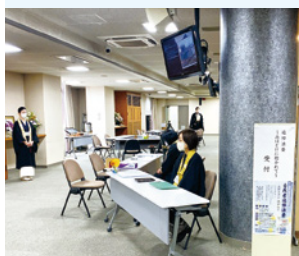
仏の子ども大集合!

神戸別院で12月23日、教区少年連盟が「第29回震災支援報恩講子ども集い」を開催した。コロナ禍により規模

縮小となっていたが、今年には教区内から250名が集まり、コロナ前の賑わいを取り戻した。午前の式典では、本堂で正信偈をお勤めし、昼食には各教化団体のカレー、豚汁、焼きそば、たこ焼き、お菓子などの出店が開かれ、食後には龍谷大学学生によるヒーローショー「ジッセンジャー」やゲーム大会を行った。子ども達の笑顔と笑い声いっぱいの一日となった。

みほとけに抱かれて 「自死者追悼法要勤修」

「自死遺族が仏さまの前に座って、安心して大切な方とのつながりを感じてもらえるように」との願いのもと「自死者追悼法要」みほとけに抱かれて」を2月4日に営んだ。11回目を迎える本法要には、18名の遺族が参拝し、故人を偲ぶひと時を過ごした。アン



受付の様子

ケートでは、「法要をしていただき有り難く思う」「貴重な時間を過ごすことができた」などの感想が寄せられた。



浄土真宗本願寺派 兵庫教区・本願寺神戸別院
親鸞聖人御誕生850年 立教開宗800年

要法讃慶

法要テーマ

つむ ご縁を紡ぐ感謝の日、 お念仏とともに歩む

日時:2024(令和6)年5月16日(木)~19日(日)

会場:本願寺神戸別院

法要13:30~/法話14:30~/記念講演15:30~

記念法話 特命布教講師 野瀬妙恵 師(滋賀教区彦根組清徳寺)

講演講師

16日(木) 演奏・講演・対談

東儀 秀樹(雅楽師)
対談・釈 徹宗(相愛大学学長)



対談テーマ
「東儀流生き方」

プロフィール

幼少期を海外で過ごしあらゆるジャンルの音楽を吸収して成長。宮内庁楽部在籍中は、箏・篳篥(ひちりき)を主に、チェロなどを担当。宮中儀式での演奏会や海外公演などで、伝統文化の紹介と国際親善の役割を担っている。他ジャンルの音楽家とのコラボレーションで、雅楽の持ち味を生かした独自の表現に情熱を傾けている。

17日(金) 講演

上野 誠(万葉学者)



講演テーマ
「日本人と聖徳太子」

プロフィール

國學院大学文学部教授、奈良大学名誉教授。博士(文学)。万葉文化論を標榜し、ユニークな視点とソフトな語り口調で、「万葉集」を学ぶことの楽しさを多くの人びとに伝えている。人気上昇中の若手万葉研究者。歴史学や考古学、民俗学を取り入れた万葉研究で、学会に新風を送っている。モットーは、「体感する万葉」。

18日(土) 対談

三輪 記子(弁護士)
対談・釈 徹宗(相愛大学学長)



対談テーマ
「法律家から見た現代人の生きづらさ」

プロフィール

2009年9月、司法試験合格し、翌年12月に弁護士登録。複数の法律事務所の開設を経て2021年3月、「三輪記子の法律事務所」を開設。2児の母。法曹、セミナー開催、メディア出演など多方面にて活躍中。好きな言葉は、「意識が存在を規定するのではなく、存在が意識を規定する」。

19日(日) 講演・落語

月亭 方正(落語家)



講演テーマ
「僕が落語家になった理由」

プロフィール

本名・旧芸名:山崎 邦正。上方落語協会会員。2013年1月より高座名「月亭方正」に改名。東京理科大学臨時講師をはじめ、講演会なども行い、お笑い芸人から落語の道へ転身を果たし芸人として培ってきた「笑いのエッセンス」を散りばめながら、磨き上げた古典落語の世界を、全国の皆様にたっぷりとお届けしている。

兵庫教区教化センターである神戸別院は、平成7年の竣工以来、今年で29年目を迎えます。鉄筋コンクリート造の大寺院として、多くの参拝者をお迎えしてきましたが、老朽化は避けられず、特に外壁の劣化は著しいものがあります。そこで、来る令和7年の「竣工30周年」の年に、外壁修復を中心とした大規模な改修工事を計画することとなり、別院役員からなる設立準備会で、事業の実施について合意がなされました。今後、建設委員会を立ち上げ、計画を進めていく予定です。



はがれ落ちた外壁

竣工30周年に向けて
別院改修計画

文字と共に
次の100年へ

株式会社 同朋舎
印刷

本社/〒604-8457
京都市中京区西ノ京馬代町6番地の16
<https://dohoprit.co.jp>

お問い合わせ TEL(075)205-5506 担当(田中)